

おもいこみ —3巻か3号か

内視鏡的胃粘膜境界が英文で発表されたのは、1969年の欧州内視鏡学会誌の *Endoscopy* 誌上である。著者は K. Kimura, T. Takemoto であり、恩師の竹本忠良山口大学名誉教授と兄弟子に当たる木村 健元自治医科大学消化器内科教授である。当時、木村教授は東京大学医学部第三内科であり、竹本教授は東京女子医大消化器内科教授であったが、前任の東京大学で木村教授を指導しておられた。

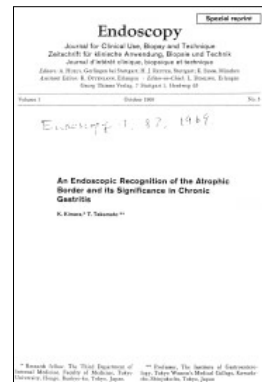
発表後、慢性胃炎の領域では必読とされ、特に *Helicobacter pylori* と慢性胃炎の関連が注目されるとともに、一段と多く引用されるようになった。

以前から気づいていたことではあるが、この文献を引用された多くの先生が、原著論文の掲載を *Endoscopy* 1969, 3: 87-97 と *Endoscopy* 誌の3巻とされていることである。

かつて私自身も混乱し、竹本教授に著者用の *Special reprint* のコピーをいただき、その表紙(写真)で確認をした。それには、Volume1 October 1969 No.3 と記されており、*Endoscopy* 誌の1巻3号であった。

どうしてこのような間違いが生じているのかと思い、改めてこの文献を業者から取り寄せたところ、標題、著者、Summary に続き *Endoscopy* 3 (1969) 87-97 と記されていた。

通常、このような記載をされると、3巻と思ってしまう。最近の多くの英文誌は、Summary の次に雑誌



のナンバーをこのように記載されているからである。当然同じと考えた、思い込みである。ただし、よく観れば3の次に「:」はない。

念のため本物で確認したいと思い、母校の山口大学医学部図書館を訪れ調べたが、*Endoscopy* 誌の1巻、3巻はなかった。山口大学医学部図書館と本誌編集部で追跡してもらったところ、全国でわずか7大学のための保有であった。最終的には九州大学に用件のある同僚に頼み、確認してもらった。

今後も引用の多いと思われる論文であり、確認のうえ引用していただきたい。

なお、両所で検索していただいた電子ジャーナルには *Endoscopy* 1969; 1 (3): 87-97 と記載されている。

(防府消化器病センター) 岡崎 幸紀

☐ お知らせ ☐

第11回 EMR/ESD 研究会 「EMR/ESD —標準化に向けて」

代表世話人 工藤 進英(昭和大学横浜市北部病院)
 当番世話人 斎藤 豊(国立がん研究センター中央病院)
 開催日 2011年7月17日(日)10:00~17:00(予定)
 会場 大手町サンケイプラザ4Fホール
 ☎100-0004 東京都千代田区大手町1-7-2
 TEL:03-3273-2257~9
 参加費 一般(医師・企業)¥5,000
 研修医・コメディカルスタッフ ¥3,000

内 容 セッション1: 咽頭・食道 EMR/ESD
 セッション2: 胃・十二指腸 EMR/ESD
 セッション3: 大腸 EMR/ESD
 セッション4: トレーニングシステムおよび新規デバイスの開発
 お問い合わせ 第11回 EMR/ESD 研究会事務局
 (独)国立がん研究センター中央病院消化管腫瘍科(消化管内視鏡科)
 事務局長: 松田 尚久
 ☎104-0045 東京都中央区築地5-1-1
 TEL: 03-3542-2511 FAX: 03-3542-3815